

日蓮聖人御遺文検索 修正ガイドライン

■はじめに

日蓮聖人御遺文検索（以下、『日文検』という。）は、なお（@meganehead1）さんが制作・管理されている日蓮教学支援サイトです。このサイトでは日蓮聖人の御遺文（御書）が収録され、検索ワードを入力すると該当の御遺文がヒットし、執筆年代と真筆の有無がわかるようになっています。

テキストデータは日蓮宗現代宗教研究所（以下、『現宗研』という。）のウェブサイトから抽出されたものですが、現宗研収録のデータには他の御遺文の混在や文字化け、誤字脱字などが存在します。それらは日文検にも引き継がれているため、利用上の大きな障害となっています。すべての異常を修正し、正確な表記に改めることで、もっとも信頼できるデータベースを目指していくことが当面の目標です。

■修正人員の確保

現在、すべての御遺文が収録されたリストを作成中です。複数の編集者で分担すれば、おおかたの異常は早期に修正できると思います。

修正すべき御遺文は、日蓮聖人の聖寿で分担することを提案します。たとえば、22 歳～30 歳で 1 名、31 歳～40 歳で 1 名、41 歳～50 歳で 1 名、51 歳～61 歳で 1 名の計 4 名。人員の集まりによって、もう少し細かく分けてもいいかもしれません。

■修正の対象

今回の修正作業で開結すべき主な異常は以下のとおりです。

1. 他の御遺文との混在

ある御遺文の末尾に、別の御遺文が挿入されています。二つ目の御遺文については、新たに項目を立てる必要があります。

道妙禅門御書（各別書）（原文漢文）

建治二年八月。五十五歳作。

外一三ノ一。遺二二ノ四。縮一五一六。類一六九五。御親父祈祷の事承はり候間、仏前にて祈念申すべく候。祈祷に於ては顕祈顕応、顕祈冥応、冥祈冥応、冥祈顕応の祈祷ありと雖も、只肝要は此經の信心を致し給ひ候はゞ、現当の所願満足あるべく候。法華第三に云く「雖有魔及魔民皆護仏法」。第七に云く「病即消滅不老不死金言不可疑之」。妙一尼御前当山参詣有り難く候。巻物一卷之を進らせ候披見有るべく候。南無妙法蓮華經。

建治二年丙子八月十日

日蓮花押

道妙禅門

（考四ノ四九。）#0228-300 四条金吾殿御返事（有知弘正法事）建治二(1276.09・06)

四条金吾殿御返事（四条第十五書）（有知弘正法事）

建治二年九月。五十五歳作。

内一七ノ三〇。遺二二ノ五。縮一五一七。類八七五。 正法をひろむる事は必ず智人によるべし。故に釈尊は一切経をとかせ給て小乗経をば阿難、大乘経をば文殊師利、法華経の肝要をば一切の声聞、文殊等の一切の菩薩をきらひて上行菩薩をめして授させ給き。設ひ正法を持てる智者ありとも、檀那なくんば争か弘るべき。然ば釈迦仏の檀那は梵王、帝釈の二人なり。これは二人ながら天の檀那なり。仏は六道の中には人天、人天の中には人に出させ給ふ。人には三千世界の中央五天竺、五天竺の中には摩竭提国に出させ給て候しに、彼国の王を檀那とさだむべき処に彼国の阿闍世王は悪人なり。聖人は悪王に生れあふ事、第一の怨にて候しぞかし。

2. 文字化け

検索ヒット画面および本文に絵文字が表示される事象がみられます。また、難読漢字が「※」に置き換わっていることがあります。それらは検索にヒットしない原因となるので、どの漢字なのかを「字源 net」等で特定して補完します。

四条金吾殿御返事（梵音声書） 文永九(1272)

たとへば百草を抹りて一丸乃至百丸となせり。一丸も百丸も共に病を治する事これをなじ。譬へば大海の一☒ {いったい} も衆流を備へ、一海も万流の味をもてるが如し。

妙法蓮華経と申すは總名也。二十八品と申すは別名也。月支と申すは天竺の總名、別しては五天竺是れ也。日本と申すは總名也。別しては六十六州これあり。如意宝珠と申すは釈迦仏の御舍利也。龍王これを給ひて頂上に頂戴して、帝釈是れを持ちて宝をふらす。仏の身骨の如意宝珠となれるは、無量劫所持の大戒、身に薫じて骨にそみ、一切衆生をたすくる珠となる也。たとへば犬の牙の虎の骨にとけ（渾）、魚の骨の※うの気に消ゆるが如し。

3. 誤字脱字・誤植

1. 誤字

原本とは異なる語句が記載されています。

「災難対治鈔」正元二(1260.02) 真筆あり

暴雨悪風不依時節 常遭飢饉苗実不成 多有他方怨賊侵掠国内 人民受諸苦恼土地無有所樂之处〔《中略》
暴風悪風時節に依らず、常に飢饉に遭って苗実成らず、多く他方の怨賊有って国内を侵掠し、人民諸の苦悩を受け土地所樂之处有ること無けん〕

2. 脱字

原本にあるべき語句が抜けています。脱字は稀ですが、これまで修正済みの御遺文に存在しました。

ちなみに厳密には脱字ではありませんが、下記の御遺文では原本で抜けが見られます。《 》で表記されている箇所がそうです。しかし【脱字】と表記しないと、誤植に見えかねません。別途対応を要します。

師子王御書 弘安元年(1278) 真筆あり

閻浮提中飢餓《 》示現閻浮提中《 》又云く__又示現閻浮提中《 》劫起等云云。

人王三十代《 》国の聖明王《 》国にわたす。王不用此〔これを用ひず〕して三代仏罰にあたるべし。釈迦仏を申し隠すが《 》念仏者等善光寺の阿弥陀仏云云。上一人より下万民にいたるまで皆人《 》此れをあらわす。日蓮にあだをなす人は、惣じて日蓮を犯す。天は惣じて此の国を《 》

3. 誤植

本文には存在しない文が挿入されています。

法華題目抄 文永三(1266) 真筆あり

今の女人は偏に他經を行じて法華經を行ずる方をしらず。とくとか心をひるがえすべし。心をひるがえすべし。南無妙法蓮華經。南無妙法蓮華經。

日 蓮 花押

文永三年〔丙寅〕正月六日於清澄寺未時書畢〔清澄寺に於て未の時書き畢んぬ〕と唱えさせ給うべし。

《 》無量無數劫 聞是法亦難。第五

の五字

の五

眼ある人も人畜草木の色かたちをしらず。日月いて給てこそ始めてこれをはしることに候へ。爾前の諸經は長夜のやみのことし。法華經の本迹二門は日月のことし。諸の菩薩の二目ある、二乗の眇目なる、凡夫の盲目なる、闡提の

第一の《 》御かたきなれ。と

兄弟鈔 文永十二(1275.04.16) 真筆あり

向かいたる→向いたる

四条金吾殿御返事（梵音声書） 文永九(1272)

然者〔然れば〕日蓮賤身なれども、教主釈尊の勅宣を頂戴して此の国に来れり。此れを一言もそしらん人々は罪を無間に開き、一字一句も供養せん人は、無數の仏を供養するにもすぎたりと見えたり。

教主釈尊は一代の教主、一切衆生の導師也。八万法蔵は皆金言、十二部經は皆眞實也[7→p0665]。無量億劫より以来、持ち給ひし不妄語戒の所詮は、一切經是れ也。いづれも疑ふべきにあらず。

4. 表記の不統一（提案）

統一されたルールにおいて表記されていません。これらを統一すると、より整然とした印象を与えることができます。表記の不統一は以下の2つです。

1. 「。」と「 」の混在

主に經文において「。」と「 」が混在しています。

これらは「。」に統一すべきです。「 」で統一すると文面がスカスカに見えて見栄えが悪いため。

立正安国論（広本） 建治・弘安の交(1275-78) 真筆あり

世尊 我等四王竝諸眷属及葉叉等見如斯事 捨其国土無擁護心。非但我等捨棄是王。必有無量守護国土諸大善神皆悉捨離。既捨離已其国当有種種災禍喪失国位。一切人衆皆無善心 唯有繫縛殺害瞋諍 互相讒諂枉及無辜。疫病流行 彗星数出 兩日竝現 薄蝕無恒 黑白二虹表不祥相 星流地動 井内発声 暴雨惡風不依時節 常遭飢饉苗実不成 多有他方怨賊侵掠国内 人民受諸苦惱土地無有所樂之处

ほかに、字下げも廃止すべきです。読みにくだけで意味がないため。

四条金吾殿御返事 建治二(1276.06・27)

四条金吾殿御返事（四条第十三書）

建治二年六月。五十五歳作。

宝外八。遺二一ノ一五。縮一四四一。類七一一。一切衆生南無妙法蓮華經と唱るより外の遊
楽なきなり。經に云「衆生所遊楽」云云。此文あに自受法楽にあらずや。衆生のうちに貴殿もれ給べきや。
所とは一閻浮提なり日本国は閻浮提の内なり。遊楽とは我等が色心、依正ともに一念三千自受用身の仏に
あらずや。

2. 歴史的仮名遣いの不徹底

本文が歴史的仮名遣いで書かれているにもかかわらず、途中で現代仮名遣いが混入しています。

唱法華題目鈔 文応元(1260.05・28)

念い→念ひ

立正安国論(広本) 建治・弘安の交(1275-78) 真筆あり

遣って→遣つて

因って→因つて

四条金吾殿御書 文永八(1271.07・12)

遇わん→遇はん

兄弟鈔 文永十二(1275.04.16) 真筆あり

物いわず→物いはず

3. 別名を記載すべき

一部の御遺文では別名や異字が記載されていないため、検索してもヒットしない場合があります。たとえば「木絵二像開眼之事」でヒットする御遺文が「法華骨木肝心」でヒットしません。また「唱法華題目鈔」と「唱法華題目抄」のように、一字違いでヒットしない御遺文があります。別名は前述の御遺文リストに記載されています。

■作業フロー

修正作業は重要なものから些末なもの(要→略→広)の順に処理していきます。

1. 文字化けのチェック。

【異常あり】御遺文集(無ければウェブサイト¹)に照らして修正。GitHub に修正を記録。

【異常なし】次に移る。

2. 御遺文混在のチェック。

【異常あり】混在した御遺文をカットし、新たな項目を立ててペースト²。その御遺文も修正する。
GitHub に修正を記録。

【異常なし】次に移る。

3. 誤植のチェック。

【異常あり】御遺文集(無ければウェブサイト)に照らして修正。GitHub に修正を記録。

【異常なし】次に移る。

4. 誤字脱字のチェック。

¹ ウェブサイトも誤っていた場合、二重に誤ることになるので注意が必要です。

² こちらの手順ご教示ください。

【異常あり】御遺文集（無ければウェブサイト）に照らして修正。GitHub に修正を記録。

【異常なし】次に移る。

5. 表記の統一。

■修正細則（提案）

表記統一の際に修正すべき点は以下のとおりです。

1. ―：「、」に置換
 バーがあることによって読みにくくなっています。
2. __：「、」に置換
 同上。
3. 「 」（全角スペース）：ツメル
 ※置換先の単語を入力せずに置換すれば全ての全角スペースをツメルことが可能。
4. 〔文〕：トル
5. 日 蓮：「日蓮」に置換
 ※文字分のスペースを空ける合理的理由がありません。むしろ読み違いの原因になるため。
6. 日蓮花押：「日蓮 花押」
7. ～：「《中略》」に置換
8. 「 」月（月が抜けている）：削除
9. ※たとえば「文永九年 月 日」の場合、御遺文集を調べて執筆日がわからなければ、「文永九年」とすべきです。
10. 「 」日（日が抜けている）：削除
 ※たとえば「弘安元戊寅年十月 日」の場合、御遺文集を調べて執筆日がわからなければ、「弘安元戊寅年十月」とすべきです。
- 11.